

NPO法人 通信 第17号

★ 巻頭言

新しい令和の御代を迎えるにあたって

日頃より、NPO法人道の活動にご協力賜り、心より厚く御礼申し上げます。

いよいよ5月1日に新天皇が即位され、令和の御代がスタートします。初代の神武天皇の建国以来、天皇を中心とする私たち日本の国は福祉国家を国家の理想としてきました。『日本書紀』によれば、天孫降臨の際、天照大御神が 皇孫瓊瓊(に)杵(ぎ)の尊(みこと)に賜った「天壤(てんじょう)無窮(むきゅう)の神勅」により、「稲のよく稔るこのすばらしい日本の国は天照大御神の子孫である天皇が統治する国であり、その統治が続く限り、この国は永遠に繁栄するであろう」と約束されたとあります。

「天照大御神は太陽の徳を持たれる神である。太陽はすべてに別け隔てなく恵みを垂れ、すべてを育み生かす力を持っている。天皇はその代理として統治されるのであるから、天皇の統治は、全てを生かす統治の象徴にほかならない。それゆえに、天皇の統治が行われる限り、日本の国家と国民の繁栄は永遠なのである。これがこの神勅の意味するところ」(熊谷保孝『福祉思想の源流』)となります。

「令和」という元号を、「太陽の恵みを受け、障害の有無などにかかわらず別け隔てなく育まれ、ひとりひとりが大きな花を咲かせる」という意味で考えれば、元号は天皇と一体のものであり、決して安部政府の元号であってはならないわけです。

私たちも、新しい御代を迎え、「令和」という元号の下、障害の有無にかかわらず別け隔てなく作品という自分の花を咲かせることのできるアートの力を以て、微力ながら福祉国家という理想に寄与して参りたいと思います。(岩立)
